

# 今年度の重点目標について

## 【令和3年度愛泉会重点目標】

社会福祉法人愛泉会は、今年度もスタッフ1人ひとりが利用者の想いや願いを受けとめ、対人援助の専門職であることを自覚し、成長する職場となるよう、更に磨きをかけてまいります。

### 1 新型コロナウイルス対応とリスク管理

感染レベルを見ながら、法人としての対応方針等を協議し、各事業所の「新型コロナウイルス事業継続計画」に基づき対応を行うとともに、状況の変化に合わせ見直しを行い感染予防と事業の継続に努めます。

### 2 ソーシャルワークの実践

障がいのある利用者が地域生活を実感できる暮らし、活動を提供し、地域活動を通して利用者が1人の市民としての権利行使できるように努めます。また活動についても地域と連携した作業・活動等の検討を行います。

### 3 人材の確保・育成

専門性の確保、研修体系の見直し等、法人本部に人材確保対策室を設置し、必要な人材確保に努めます。また業務日誌等活用による職員の資質向上に努めるとともに、職員の福利厚生、待遇改善、研修等を総合的に行います。

### 4 地域への貢献

利用者の社会参加を通して、居場所づくりや地域社会の課題に貢献して参ります。また、要望の高い中山町にグループホームを新設し、放課後等デイサービス、生活介護、緊急ショートステイ等の事業の検討を行います。

### 5 中期経営計画の作成

地域運営協議会や相談支援事業でのニーズを把握し、長期的な視点に立って中期経営計画作成を通して、真に必要な事業の検討を行います。また向陽園のあり方、設備の活用等について検討を行います。

### 6 政策提言

実践を通して得られた、地域移行、意思決定支援等の成果を検証し、サービスの質の評価等を国、県、市町村に自立支援協議会や知的障害者福祉協会活動を通して提言を行います。

[事務局長 豊田 裕一]

## 支え愛

## 『10年たって思うこと』



児童デイサービス月のひかり

保護者 會田 洋子

息子の晃生はダウン症で重度の知的障がいがあり、現在は特別支援学校の高校2年生です。毎日放課後は月のひかりさんに行き、楽しい時間をすごして夕方家に帰ってきます。このような安定した生活が送れるのも、ずっと愛泉会に支えていただいているおかげです。

10年前、晃生が小学校入学する時、特別支援学校には学童保育がないことを知り、目の前が真っ暗になりました。その頃の私は障がいのある子供がいるからといって、やりたい事をあきらめたくない、特に仕事は絶対に辞めたくないと思っていたのでとても悩みました。そこで、放課後等デイサービスや福祉サービスの利用について他の事業所と連携を取っていました。当時は事業所の数も少なく、毎日の利用は難しかったのですが、おかげさまで放課後の安全な居場所を無事に確保することができました。これまで、送迎や急な利用変更などにも柔軟に対応してくださり、たくさん助けていただきました。本当に感謝しています。

障がいを持つ子供とその家族は、保育園の入園、小中学校・高校の入学、卒業後の進路など、その節目ごとに壁にぶつかります。まだまだ我慢やあきらめを強いられる事多くあります。また、福祉サービスの

制度や利用方法を知らなかったり、地域によってサービスに差があったりします。

今、10年たって思うことは、学校・福祉事業所・行政などが、子供の成長や進路をそれぞれサポートするのではなく、情報を共有し連携してアドバイスをしていくような仕組みが構築されれば、各家庭は節目ごとの壁で悩むことも少なくなるのではないかということです。また、共通理解することで、子供の適正や得意分野を発見し能力を伸ばすことも期待できるかもしれません。

あと1年と少しで、学生生活にも終わりがきます。卒業後の進路を真剣に考える時期がきました。これから先、子供の安心できる居場所が見つかるのか不安と心配は尽きません。でも何か困ったときには相談できることを心強く思っています。愛泉会は障がいをもつ子供の家族に寄り添ってくださる大切な存在です。これからも、よろしくお願いします。

# 特集

## 僕の夢、私の夢～夢・実現のために～

2021年度

『夢・実現のために』と、愛泉会ではテーマを掲げています。障がいがあるから出来ないとあきらめていることはないでしょうか。すぐに実現できなくても、少しづつお金をためたり、練習したり、経験を重ねたり。多くの取り組みがされていると思います。成功しないと表に出ないことが多い中、そのプロセスを大切に、一緒に取り組んでいる内容をご紹介します。



### グループホーム支援センター心音

#### サテライト型住居での新しい生活がスタート!!



平成29年12月からグループホーム来未に入居されているIさんは、明るくて冗談が大好き。料理が得意で車の運転もされるIさんですが、入居後より体調不良が続き入退院を繰り返してきました。しかし、健康面の課題がクリアできれば、1人暮らしをして仕事を始めたいという希望もありました。令和元年頃より、入院することもなくなり元気に過ごせることが続いたので、今後の生活について考え、話し合う時間が増えました。想い描く夢はありながらも、1人暮らしには不安なことも多く、なかなかその



1歩を踏み出せずにいましたが、昨年度新しい生活にチャレンジしたHさんの話を聞いて、サテライト型住居での生活を送ってみたいと強く希望されました。どのような環境で生活したいのかついでに話を聞きサテライト型住居の支援のその後について話をしながら、不動産会社と一緒に行き最適の物件を探しました。自分自身の生活や仕事を、自分で考えてその思いを話される表情はとても明るく、以前は気持ちが落ち込むことも多かったIさんでしたが、将来のことを前向きに考えられるようになったと感じています。

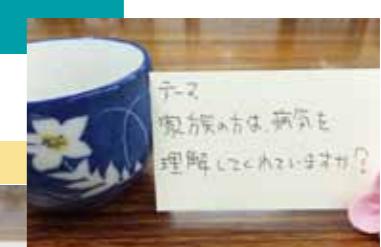
7月より、籠田のアパートにて1人で生活をされています。食事はグループホーム「いちごはうす」に来て食べてもらっています。洗濯や掃除、服薬等を見守りながら、新しい生活を楽しく送ってもらえるように支援していきたいと思います。

[グループホーム支援センター心音 所長 武田幹]



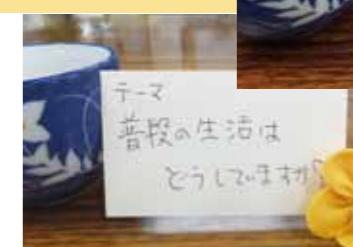
### 地域活動支援センター天花

#### 希望(夢)+信じる事+仲間=希望(夢)



「茶話会サークル」は、統合失調症のKさんの希望からスタートしました。第1回では、他利用者さんに進行をお願いしました。第2回では自身で進行をする事が出来きました。第3回ではテーマを決め、第4回では休憩時間の設定、第5回では質問タイムを設けました。主体的に始めたサークルにて、本人の経験を活かしながら今では“茶話会リーダー”としての役割を築き始めています。

スタッフは、毎回振り返りを実施し本人の頑張りを認め評価し、理想の形に向けて改善点と一緒に悩み、一緒に考える、挑戦する意欲の背中を押しています。茶話会の最後には、Kさんの努力を称えて参加者全員でKさんに向けて拍手をして終えるようにしています。ご本人は「みんなが楽しめるように」と笑顔で話していました。個人の希望がメンバーを含めた希望に変化した事が印象的でした。



現在では、自分の事よりもメンバーの事に気を使える、頼りがいのあるリーダーへと成長しているため、今後の仕事にも活かせる事を期待しています。

“会話を楽しみたい”気持ちを「夢・希望」としてスタッフが最初にした事は、本人の力を“信じる事”。本人の可能性を活かす事を大切に、これから的新たな夢も含めて一緒に歩んでいきたいと思います。

[地域活動支援センター天花 支援員 仲川幸博]